

# Frente



三重県男女共同参画センター  
フレンテみえ

フレンテとはスペイン語で  
「前向き」という意味です。

2021.2

vol.84

特集

3・11  
あれから10年。

『女性と災害』

—忘れてはいけないこと—

非常を非情の理由にしない。

い  
い  
わ  
け

## 事業案内

- フォーカスみえ  
「境界線を越えて スポーツが教えてくれる未来へのヒント」
- 「理想の母親／今の私」ほか

## 特集

- 荻原くるみの「紹介したい人！」  
最終回 鳴海康平さん（第七劇場代表・演出家）
- コラム「あなたとわたしの『あたりまえ』を考える」  
最終回 「コロナ禍×性の多様性で起こること」

## イベントレポート

- 女性に対する暴力防止セミナー  
「ワタシがこの子をたたくワケ～DVと虐待～」
- 男性講座「怒りに負けない男をめざす  
～しなやかな男のアンガーマネジメント術～」
- フレンテみえ 種まきプロジェクトⅡ“働く”編  
「近未来リーダー☆育成プロジェクト」
- フレンテみえ 種まきプロジェクトⅢ“社会の課題”編  
「非常時に深刻化する暴力  
～地域が果たせる役割とは～」ほか
- フレンテみえを、おうちで。  
「ミニセミナー inオンライン ～仕事と家庭の両立編～」

3・11あれから10年。

# 女性と災害 —忘れてはいけないこと—



あの日、あの時、あなたはどこで何をしていましたか。

誰も経験したことのない未曾有の被害を記録したあの大災害の発生から10年。

この節目にもう一度あの日のことを思い出し、考え、その気づきや想いを未来へ繋いでいきませんか。

## 「東日本大震災」とは

平成23年3月11日14時46分頃、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近、深さ約24kmを震源とする大地震とそれに伴う大災害、いわゆる「東日本大震災」が発生しました。遠く離れた三重県でも揺れ（震度としては2～3）を体感。そして、岩手、宮城、福島県を中心とする太平洋沿岸部を襲った巨大な津波と福島第一原子力発電所の事故による甚大な被害の様子は、今でも決して忘れることはできません。この地震のマグニチュードは9.0。これは日本国内観測史上最大規模（発生時点）でした。

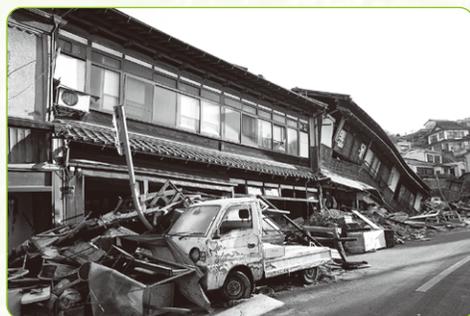
この震災の被害のうち、死者・行方不明者は12都道府県に及びました。そして、地震の直接的な被害（家屋の倒壊や火災、津波による水難など）ではなく、避難生活による苦労や環境の悪化からくる病気、持病の悪化などで命を失う『災害関連死』は現在も増え続けています。また、発生から10年経った今でも避難生活を送り、故郷に帰るめどが立たない被災者が大勢いる状況に変わりはありません。

死者15,899人、行方不明者2,527人  
(令和2年12月10日警察庁発表)

避難者 42,415人  
(令和2年12月8日復興庁発表)

災害関連死 3,767人  
(令和2年12月8日復興庁発表)

災害は、時間の経過とともに被害が拡大する傾向があり、避難生活の過酷さやいつ終わるともしれない絶望感などによって新たな犠牲者を生み続けることも忘れてはなりません。そして、その要因の1つとして注目されるのが、「性別」に関すること。特に「女性と災害」に係る課題です。



## 災害時に発生した環境面での困難

東日本大震災においては、必要な支援物資の不足や、避難所における必要な配慮が十分でなかったことにより、多くの人が避難生活において過酷な状況に追い込まれることとなりました。その中でも女性は生活面、環境面において以下のような多くの困難を抱えての避難所生活を余儀なくされていました。

### 実際にあった困難の例

- 着替えや授乳をする場所が無かったり、女性用の物干しスペースが無い場合洗濯物が干せず、濡れたままの下着を履いていた
- 育児・介護用品、女性用品・下着等の不足。また、これらの物資が男性による配布だったことで女性が直接受け取りづらくなっていた
- 「女性だから」という理由だけで炊き出し作業の役割を割り振られ、ライフラインの止まった環境で毎日大人数の食事作りを強いられた
- 妊娠初期の女性が妊娠していることに気づかれず、必要な医療的支援を受けられなかった など



このような事態になったのは、当時の避難所運営において男性がリーダーを務めるケースがほとんどであったため、女性が要望を伝えたり、逆に運営側が女性の要望をくみ上げることが難しかったことが原因の一つに挙げられます。災害発生時すべての人の命を救える避難所をつくるためには、多様なニーズを受け入れられるよう男性も女性もリーダーの役割を担うことが求められています。

## 深刻化する「暴力」

災害時には、日頃から起きているDV(夫婦や恋人間など親しい間柄での暴力)や、性暴力、ハラスメントなどの問題がより深刻化します。被災によるストレスが「暴力」という形でより弱い立場の人へ向けられ、女性や子どもが被害者となるケースが多く発生したのです。特にDVは、震災を機に始まるものだけでなく、家族離散によりそれを止める人がいなくなったり、仮設住宅など限られたスペースで暮らすことで逃げ場がなくなったりしたことで悪化したケース(これは外出自粛等が続くコロナ禍で世界的に被害が拡大している「コロナDV」も同様)も報告されています。

暴力は、殴る・蹴る(身体的暴力)だけではありません。

ほかにも…

- 経済的暴力…生活費を渡さない、仕事をさせないなど
- 精神的暴力…暴言をあびせる、バカにする、無視するなど
- 社会的暴力…外出を制限する、行動を監視するなど

そして、なかでも深刻なのが「性的暴力」(性行為を強要する、避妊に協力しないなど)です。

避難生活では、着替えを覗かれる、盗撮や身体を触られるといった被害をはじめ、強制性交などの性的暴行が、被災者間だけでなくボランティアなどの支援者も含め、発生しています。停電で暗がりも増え、倒壊家屋や瓦礫等で死角も増している地域で、警察などの機能も日常どおりではなく治安が不安定になるなか、どのようにこれらを防いでいくかは大きな課題のひとつです。

ただ、この女性への暴力は、東日本大震災以前からも確かに発生していたにもかかわらず、「みんながんばっているのに、そんなことが起きているはずがない」「若いから性欲を抑えられなくても仕方ない」など見ないふりをされ、ずっと「なかったこと」とされ続けてきました。

「被災してみんなが大変ななか、こんなことをいうのはわがままなんでしょうか」

「家をなくし、ここでしか生きていけない時に、誰にも言うことができなかった」

これは、支援センターへ相談をした被害女性の言葉です。

災害時の暴力についてはまだまだ認知度が低い現状があります。多くの人が災害時に起こっている暴力について知り、男性も女性も共にこの課題に取り組んでいくことが必要不可欠です。

## 忘れてはいけない、大切なこと

東日本大震災を経て「女性と災害」に関する対策の必要性や住民の意識がより高まったことを受け、国や地方自治体の「防災基本計画」「避難所運営ガイドライン」等にも男女双方の視点や多様性に配慮した取組についての項目が定められました。しかし、熊本地震(2016年)や西日本豪雨(2018年)、熊本豪雨(2020年)などその後発生した災害の現場でも、残念ながら同様の課題が少なからず起こっています。時間が経つにつれてどうしても意識が薄れ、対策や準備が後回しにされてしまう現実のなか、未だ辛い想いを抱える被災者が絶えません。

昨年5月、内閣府から「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」が発表され、基本的な考え方と、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において取り組むべき事項が改めて示されました。

## 7つの基本方針

(「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」より)

<https://www.gender.go.jp/policy>

[/saigai/fukkou/guideline.html](https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/guideline.html)



- ① 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- ② 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- ③ 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- ④ 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- ⑤ 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- ⑥ 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- ⑦ 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

これは、決して忘れてはならない「女性と災害」対策の礎です。

あれから10年。皆さんの家の、町の“備え”はいかがですか?そして、そこに“多様な視点”はありますか?ぜひこの機にもう一度、「チェック」してみましょう。

### 避難所チェックシート

- 男女別更衣室、男女別休養スペースがある
- 女性専用スペース(女性用品の配置・女性相談)がある
- 女性トイレと男性トイレは離れた場所にある
- 管理責任者には男女両方を配置している
- 避難者による食事作り・片付け、清掃等の負担が、特定の性別や立場の人に偏っていない(男女を問わずできる人で分担)
- 女性用品(生理用品、下着等)は女性担当者が配布を行っている
- 暴力を許さない環境づくりが整備されている  
(啓発ポスターの掲示、相談カードの設置、照明の増設、女性や子供は2人以上で行動する、移動する際はまわりの人に声を掛け合う)

### 備蓄チェックシート

- 生理用ナプキン(普通、長時間向け等)
- 中身が見えないゴミ袋
- 女性用下着(各種サイズ)
- 粉ミルク(アレルギー用含む)又は液体ミルク
- 哺乳瓶・人工乳首(ニップル)
- 離乳食(アレルギー対応食を含む)
- 乳幼児用紙おむつ(各種サイズ、女児用、男児用)、おむつ用ビニール袋
- おしりふき
- 防犯ブザー/ホイッスル  
(※上記ガイドライン第3部「便利帳」より一部を抜粋)

「女性と災害」の課題は、決して女性だけに関わるものではありません。災害の現場では男性も性別役割にとらわれ、辛い想いや過酷な環境に直面することがあります。私たちがめざすべきは、女性も男性も、子どもも高齢者も、外国人も性的マイノリティも、町で暮らす誰もがみな安心・安全な避難生活を送り、復興の道を進むことができる町づくりです。実は、そのために最も重要な準備は、「いま」の私たちの町で「多様性を育む」こと。まずは家庭から。職場でも。できることから少しずつ、広げていきましょう。



## 令和2年度 フレンテみえ男性講座

## 怒りに負けない男をめざす

## ～しなやかな男のアンガーマネジメント術～

開催日 11月29日(日)

最近、イライラすることが多くなったり、怒りっぽくなったと感じたりしている人も少なくないのでは。そんな中注目を浴びているのが「アンガーマネジメント」。今年の男性講座は、様々な企業や各地の男女共同参画センターなどで人材育成に関わる講座を行われてきた株式会社きらめき労働オフィス代表取締役の角井孝次さんを講師に迎え、アンガーマネジメント講座を行いました。

角井さんによると、怒りをコントロールする上で要注意なのが「〇〇は××すべきだ」「～しなければいけない」という思考。この「べき」が「自分が正しいと思うこと」と「現実」のギャップを生み出すことで怒りを引き起こす原因になりやすく、自分の中の「べき」と向き合い、見直していくことがアンガーマネジメントにつながっていくとのことでした。

角井さんの豊富な知識と確かな根拠に基づいた説得力ある語り口で、怒りの感情との付き合い方を分かりやすくお話いただき、参加者の皆さんからは「怒りのしくみが理論的に分かった」「今日から即実行しようと思う」といった声が聞かれました。

令和2年度 フレンテみえ 種まきプロジェクトⅢ “社会の課題”編  
コロナ禍を生きる私たちが知っておきたいこと

開催日 12月6日(日)

## 非常時に深刻化する暴力

## ～地域が果たせる役割とは～



私たちの暮らしの中で起きている、様々な“社会の課題”に焦点を当て、自分たちができることについて考えていく講座がスタートしました。今年のテーマは「非常時に深刻化する暴力」。講師にオンラインでご登壇いただき、参加者も会場とオンラインそれぞれから受講いただきました。

講師の正井禮子さん（認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表）からは、災害時やコロナ禍等の非常時には日頃の課題がより深刻化すること、実際に起きているが「なかったこと」にされてきた女性への暴力の実例等をお話いただき、その後参加者同士で自分たちができることなどについて話し合い、共有しました。

参加者からは「現実にはたくさんの被害があることに驚いた」「みんなで考え、つながり、動くことが大切だと思った」「大切なことを知ることができた。これからの活動に生かしていきたい」などの声が聞かれ、講義中もとても熱心にメモをとる姿が見られました。

令和2年度 フレンテみえ 種まきプロジェクトⅡ “働く”編  
“自分なんか”→“自分だから”へ！

開催日 1月13日、22日、29日

## 近未来リーダー☆育成プロジェクト



女性も男性もあらゆる可能性を“自分なんか”と諦めず、“自分だから”こそ描ける未来へ向けて必要な意識・知識・スキルを学んでいただく新しい人材育成講座。初開催の今回は、固定観念にとらわれず柔軟な人生設計を描けるようになるための入門編として3テーマを設定し、全回「オンライン講座」として実施しました。県内在勤の様々なキャリアの皆さんにご参加いただき、いずれの回も少人数ながら充実した講座となりました。本事業は今後も毎年様々なテーマで開催する予定です。誰もが長く関わる“働く”場。自分らしく充実した日々のために、ぜひご活用ください！

今年度  
開催テーマ

vol.1 「令和型キャリアデザイン」のススメ

講師／藤井 佐和子さん（株式会社キャリアエーラ代表取締役 キャリアアドバイザー／ダイバーシティコンサルタント）

vol.2 「気づいて!あなたの中の“アンコンシャス・バイアス”」

講師／毛利 雅一さん（一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 パートナー講師）

vol.3 「人口ボーナス期×オナーズ期 組織も社員も成長する働き方とは」

講師／新井 セラさん（株式会社ワーク・ライフバランス、ワーク・ライフバランスコンサルタント）



## 令和2年度 女性に対する暴力防止セミナー

開催日 11月23日(月・祝)

### ワタシがこの子をたたくワケ ～DVと虐待～

女性に対する暴力を許さないという意識の浸透を図るため毎年開催しているセミナー。今年も、原宿カウンセリングセンター所長の信田さよ子さんを講師にお迎えしました。

児童虐待がある場合、その約6割の家庭で父親から母親へのDVがあるとされています。警察から児童相談所へ通告される児童虐待事例が年々増加しているなか、講師からは、報道されている虐待死事件を例として挙げながら、DVと虐待は分けて考えることはできない問題であり、児童相談窓口(厚労省)とDV相談窓口(内閣府)は連携強化に向けて動き始めているとのお話がありました。また、DVや虐待などの影響は遅れて現れることが多く、コロナ感染拡大の影響についても今後遅れて現れることが予想され、元々仲が良い家族はより仲良くなるだろうが、元々関係の良くなかった家族はどんどん悪くなるだろうというお話もありました。

虐待が親から子へ連鎖することを防ぐためには、自分が受けてきた被害について自覚しケアしていくことが重要です。辛い想いを抱える子どもたち、そして親たちをこれ以上増やさないために、「フレンテみえ相談室」をはじめとする様々な相談機関や「児童相談所虐待対応ダイヤル『189』」などの利用を通して早い段階でその兆しに気づき、援助の手を差し伸べ続けることが大切であると感じました。



## 令和2年度 内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」 総文パープル・ライトアップ2020

開催日 11月7日(土)～25日(水)

内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」期間(毎年11月12日から25日)にあわせて、今年度も女性に対する暴力根絶の紫色のシンボルカラーにライトアップしました。

世界的にも、外出自粛や在宅勤務、休業が余儀なくされる中、生活への不安やストレスによって配偶者等からの暴力(DV)の増加が深刻化しています。ジェンダー(社会的性差)意識が根強い日本では、経済的にも立場が弱くなりがちな女性が家庭内の暴力から逃げ出しにくい社会構造があり、また自尊心が低い被害者が自らを守る行動を起こすのは難しいといわれています。どうか一人で悩まないで、相談してください。そして、周囲の人はどうか気づいてあげてください。



## フレンテみえを、おうちで。 オンライン・フレンテ「New LIFE Style」連動企画

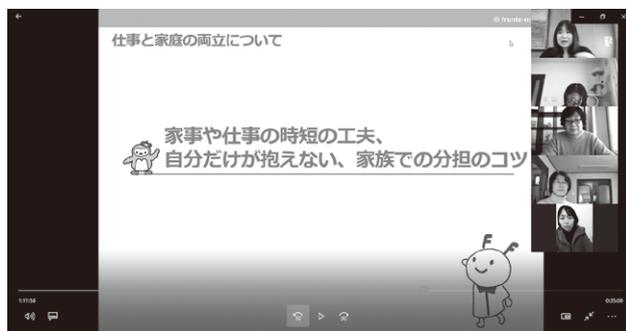
開催日 1月24日(日)

### ミニセミナーinオンライン ～仕事と家庭の両立編～

コロナ禍で人が集まり何かをすることが難しくなっているいま、オンラインで新しい何かをと開設したフレンテみえの特設サイト「New LIFE Style」。今回、その連動企画のひとつとして、外出や移動の心配をせずにオンラインでつながり、同じテーマに興味のある人同士一緒に話してみよう!と本座談会を企画、開催しました。

少人数でのアットホームな会となりましたが、「仕事と家庭の両立」をテーマに、両立の仕方や時短家事の工夫、リフレッシュの方法など、皆さんで様々な話題に花を咲かせました。

参加者からは、「会えなくてもオンラインでつながって話をすることで孤独にならず、思いを誰かに話すことが大切だと思った」「子育て中で、久しぶりに人とゆっくり話ができてありがたかった」などの感想をいただき、オンラインの可能性を改めて感じられる会となりました。これからも様々なツールで、皆さんとつながっていければと思います。



オンライン・フレンテ「New LIFE Style」はこちら!

5/9

## 令和3年度 フォーカスみえ 境界線を越えて スポーツが教えてくれる未来へのヒント

今年は、コロナ禍で延期となった東京オリンピック・パラリンピック、そして三重県では三重とこわか国体・大会が開催されます。そんなスポーツに熱い1年になる（なるはず！コロナに負けるな！）今年、フレンテみえならではの視点で『スポーツ』にフォーカスした講演会を開催します。

講師は、初の女性スポーツキャスターとしてテレビ朝日「ニュースステーション」「報道ステーション」で400本以上のスポーツ特集を手掛けた宮嶋泰子さん。オリンピックをはじめ、多くの競技現場やアスリートを取材された宮嶋さんから、スポーツやオリンピックの歴史、その中の女性の地位の変遷、これからのスポーツ界が乗り越えていかねばならない課題などをお話いただきます。



**日時** 5月9日(日) 13:30~15:00

**会場** 三重県総合文化センター内  
三重県文会館1階 レセプションルーム

**対象** テーマに関心のあるかた

**参加費** 無料 要事前申込(先着順) **定員** 50名

**講師** 宮嶋 泰子さん  
スポーツ・文化ジャーナリスト  
(一社)カルティベータ代表理事

**託児** あり 要事前申込 1歳6ヶ月~小学3年生程度  
子ども一人につき500円 託児申込締切4/25

5/12~

## 理想の母親／今の私

子育て、順調ですか？

「お母さんになったんだから、自分のことは後回しにして子どものことを第一に考えないといけないのになんかうまくいかない」「優しい母親になろうと思っていた。でも毎日怒ってばかり」「みんなができてることが私はできていない。こんな私が子育てしていいのかな」「自分に自信がない私みたいな子になったらどうしよう」なんて、自分を責めていませんか。

あなたがめざしている理想の母親像はいつ、どんなことがあってできあがったもののでしょうか。子どもも、母親であるあなたも十人十色。いろいろなあり方があっていいと思えないのはなぜなのでしょう。

たくさんの“お母さん”の話を聴いてきた講師と一緒に、あなたらしい子育てを考えてみませんか。



**日時** 5月12日、6月2日、23日  
(各水曜日) 10:00~12:00

**会場** 男女共同参画センター  
「フレンテみえ」2階 セミナー室A

**対象** 子育てや親子関係に悩む県内在住、在勤、在学の女性

**参加費** 無料 要事前申込(先着順) **定員** 20名

**講師** 加藤 伊都子さん  
フェミニストカウンセリング堺・フェミニストカウンセラー

**託児** あり 要事前申込 0歳6ヶ月~小学3年生程度  
子ども一人につき1,000円 託児申込締切4/28

6/23~

## フレンテまつり2021@オンライン with 謎解きゲーム

### 「ジェンダー城のナゾ! 2」

毎年恒例、フレンテみえ登録団体の皆さんの活動発表・交流イベント「フレンテまつり」。今年は史上初のオンライン開催! フレンテみえのホームページ上で、動画、写真などで登録団体の皆さんの活動を発表します。

また前回大好評をいただいた、みんなで謎を解きながら男女共同参画について楽しく学ぶ謎解きゲーム「ジェンダー城のナゾ!」も、オンライン仕様に装いを新たにして登場。すべての謎を解けた方にはフレンテみえオリジナルの記念品をプレゼントします!

難易度も前回よりアップ!? さあ、あなたはすべてのナゾが解けるでしょうか?

今年はStay homeで楽しむ「フレンテまつり」。特設サイトは6月23日にOPEN予定。情報は公式SNSやホームページなどで随時お知らせします。お楽しみに!





フレンテみえ所長の荻原が厳選した「皆さんに紹介したい人」のお話をお届けするコーナー。最終回は、津市美里町を拠点とする劇団「第七劇場」の代表で演出家の鳴海康平さんです！



フレンテ所長  
荻原くるみの

# 紹介したい人！



——最終回 鳴海康平なる み こうへいさん(第七劇場代表・演出家)——

鳴海さんは演劇界でも超有名。ご存知の方も多いと思いますが、実は私、前職(小学校の校長)時代に子どもたちの演劇指導に関わっていたり、さらに、新しい学校の創立時に校歌の作詞をお願いしたりというご縁があり、その豊かな人間性、感性に感銘を受けました。

鳴海さんのジェンダーや家族観も含め、作品を創るうえで  
の想いなどについてお話を伺いました。

**Q** 2017年に劇作家イブセンの代表作『人形の家』を三重県文化会館で上演されました。そのきっかけや想いについてお聞かせください。

イブセンは「女性の自立や権利」をテーマに多くの作品を書いていて、いつかやってみたくて思っていました。また、私たちが上演した年は、国際女性デー(3月8日)をきっかけに起きたロシアの二月革命(1917年)からちょうど100年であるという事もあり、上演を決めました。

日本では、『人形の家』が初めて紹介された年に、雑誌「青鞥」が創刊されています。当時「青鞥」を起ち上げた女性たちを『人形の家』の主人公ノラ(妻や母親の役割を捨てて家を出ていく)にたとえ、奔放で自分勝手なわがままな女性と言われていたようですが、平塚らいてうをはじめ「青鞥」を起ち上げた女性たちは、女性に参政権すら与えられてない時代にあって、世界の中でも早い時期から女性の権利について主張してきた、先進的な活動をされたと思います。しかし、そうした人たちの努力に反して、社会の構造、家族のありようなど、根本的なところは是正はあまり進んでいないと感じています。ただ、若い世代の方々の意識は多様で、変化ってきています。これから少しずつ社会は動いていくのではないのでしょうか。

文化芸術は、日常生活で見えているけど気づいていなかったり、気づいていないふりをしていること、なかなか言えないこと、自分しか思っていないのではないかと違和感を抱いていたりすること、それらを明るみに出したり気づいてもらったりする役割もっています。そういった意味でも、イブセンの別の作品にも取り組んでみたいと考えています。

**Q** 以前、「移ろいゆく家族のカタチ」というテーマのインタビューのなかで、「家族をする」という言葉を用いられていましたが、これはどのようなことですか？

一般的に思い描かれる「家族」の形は、明治政府が民法を制定する際に西欧から輸入したシステムを政府主導で浸透させたもの

だという事は、意外と知られていません。江戸時代、武家や商家では主である男性が女性と一緒に食事をするという習慣はなかったという研究もあります。明治時代に「一家団欒」という概念を西洋から取り入れ、多数の雑誌等で紹介されたそうです。

現在、人口構造が変わってきて、家族の形も多様になり変化してきています。核家族化や単身者の増加だけでなく、パートナーとの関係性の多様化、同性とのパートナーシップ、血縁関係のあるなしにかかわらず家族に似たシステムやコミュニティの構築などを視野に入れて、「家族をする」という言葉で表現されることがあります。家族はすでに当然のものではなく、他者と生活をともにする多様な形態であると言えると思います。

**Q** さいごに、情報誌Frneteの読者の皆さんにメッセージを！

誰もが平等・公正だと思える社会にすぐには変わるのには、残念ながら難しいです。だからこそ、私たちの子どもや孫の世代が少しでも不平等がない社会を迎えられるように、いま私たち一人ひとりに何ができるかを考え、次の世代や自分の身近な人に何を伝えられるのかを考え、そして「行動」することが大切だと考えています。たとえば言葉のように、社会の根幹や人生の基盤に関わる意識は長い年月がかかって変わっていきます。言い換えれば、時間はかかるかもしれないけど、必ず変えられるものです。まずはいろいろな不平等や考え方を知ることや、近いひととお互いの意見や考え方を共有することからはじめてほしいと思います。

## Profile

鳴海康平さん

第七劇場、代表・演出家。  
Théâtre de Belleville、芸術監督。



1979年北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。  
早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。これまで国内24都市、海外5ヶ国11都市(フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾)で作品を上演。ポーラ美術振興財団在外研修員(2012年・フランス)としてパリを中心に活動。2013年、日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演したのち、2014年、三重県津市美里町に拠点を移設。民間劇場 Théâtre de Belleville を開設。津市みさとの丘学園校歌作詞。愛知県芸術劇場主催 AAF戯曲賞審査員(2015年～)。名古屋芸術大学 非常勤講師(2020年～)

フレンテスタッフ  
コラム  
最終回

4回シリーズ あなたとわたしの『あたりまえ』を考える  
「コロナ禍 × 性の多様性 で起こること」

新型コロナウイルスの猛威も終わりが見え、日々ニュースなどでその影響をたくさん見かけます。新型コロナウイルスへの感染だけでなく、それに付随した暴力の増加、貧困、人と人とのつながりの希薄化など、数えきれないほどの課題が生まれています。

そのなかで性的マイノリティの人たちにはどのような影響があるのでしょうか。性的マイノリティの人たち特有の困難として、まずは居場所の喪失があげられます。これまで各地で自助団体などによる当事者同士の交流の場が催されていましたが、コロナウイルス感染防止のため、交流の場がなくなり、孤立している当事者がたくさんいます。性的マイノリティの人たちのなかには、家族の無理解により自宅での居場所がなく、当事者同士の交流が大きなライフラインとなっていることも少なくありません。それを失うことで、その人の生活の質が大きく低下することは想像に難くありません。

さらにホルモン療法などを行っているトランスジェンダーの人たちのなかには、外出自粛により通院ができない、または収入が減ったことで薬を購入できず、薬を中断せざるを得ないといった事例も生じていました。薬の急な中断は体調を崩す原因となります。

そして、性的マイノリティの人たちが新型コロナウイルスに感染した場合はどうでしょうか。感染経路の確認のため、居住地

や家族構成、濃厚接触者の調査がされ、感染者の年代や性別などが公表されています。同居している同性カップルの場合は自分たちの関係性をどのように説明したらよいのか、トランスジェンダーの方たちは戸籍の性別で扱われてしまうのか、感染状況追跡の過程でアウトティング（性的マイノリティの人たちの性的指向や性自認などが本人の意思に関わらず暴露されてしまうこと）が起きてしまうのではないかと、様々な不安や課題が残されています。

社会的な危機が起きたとき、少数派の人たちはよりいっそう苦境に立たされてしまいがちです。今、これだけ課題が生じるということは、私たちの社会が性の多様性を当然のことととらえていない証なのではないでしょうか。今だからこそ、一人ひとりが自分の意識を見直すよい機会と捉え、共に取り組んでいくことが必要です。

全4回のこのコラムも今回が最終回です。これまでいろいろな角度から性の多様性や私たちの『あたりまえ』について考えてきました。きっと性の多様性を理解するうえでゴールはないのだと思います。ただ、一人ひとりが考えや行動を少し変えるだけで、私たちの社会は良い方向へ進むのではないのでしょうか。今回のコラムが皆さんの『あたりまえ』を少しでもほぐすきっかけとなっていたらうれしく思います。



★「情報誌Frente vol.84」についてのご意見をお聞かせください!(Webでの回答は3/29まで)  
回答はこちらから→ [https://www.center-mie.or.jp/frente/information\\_magazine/enquete](https://www.center-mie.or.jp/frente/information_magazine/enquete)



フレンテみえって、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ  検索

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...  
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

**女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料**

フレンテみえ 専用ダイヤル **059-233-1133**  
相談室

| 相談時間          | 曜日  | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 朝 9:00~12:00  | 休館日 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 昼 13:00~15:30 | 休館日 | ● | — | — | ● | ● | ● | ● |
| 夜 17:00~19:00 | ※   | — | — | ● | — | — | — | — |

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか女性のための面接相談、法律相談と男性のための電話相談、LGBT相談を実施しています。詳しくはお問合わせください。

フレンテみえ相談室のご案内  
(切り取ってご利用ください)

**三重県男女共同参画センターまでのご案内**

● 休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日)  
● 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分  
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分  
※駐車場は1,400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS  
**三重県総合文化センター**  
三重県男女共同参画センター フレンテみえ  
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地  
TEL 059-233-1130 FAX 059-233-1135  
URL <https://www.center-mie.or.jp/frente/>  
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。